

# オンライン授業とは（受講の注意点）

## ① オンライン授業とは

離れた場所で行われる授業を受講することです。主にインターネットを利用するため「オンライン授業」と呼ばれ、「遠隔授業」とも呼ばれます。例えば、他の学校の教室とオンラインでつながり意見交換をしたり、海外在住の英語講師の授業を国内の教室で受けたりといった様子をニュースで見たことがある方もいるでしょう。こうした受講のための空間が、教室ではなく自宅になるとお考えいただければと思います。

## ② なぜ今オンライン授業！？

皆さんもご存知の通り、2020年当初より日本国内でも新型コロナウイルスの感染が拡大しました。通学中や学内での感染拡大防止のため本学においても予防のための取組を行うことになりました。教室内での授業における3密（密集、密閉、密接）を避ける効果の高い手段の一つとして、多くの大学が急速にオンライン授業を取り入れることとなったのです。

ですが、オンライン授業が今始まったことかといえそうです。インターネットを用いた授業の形態は2008年ごろからアメリカで始まったMOOCs (Massive Open Online Courses) により拡大したといわれています。MOOCsでは世界の有名な大学が積極的に参加してオンライン授業の場を提供しています。なお、日本で1980年代から始まったNHK放送大学もオンライン授業の1つの形態といえるでしょう。

## ③ 必要な環境

オンライン授業を受講するためには、「インターネット回線」と「受講用端末（デバイス）」が必要となります。

## ■インターネット回線

インターネット回線には主に以下の3つがあります。

### A：固定回線

光回線、ケーブルテレビ、ADSL 回線といったものがあり、自宅に引き込むタイプの回線です。アパートなどの賃貸物件の場合、利用できる回線が整備されている場合があります。回線の有無がわからない場合、家族や不動産管理会社に尋ねてみましょう。安定した高速通信が可能で、月間で利用できる通信量に制限がないことが一般的で、最もオンライン授業の受講に適した環境です。スマートフォンやタブレットなどの無線デバイスを利用するためには、別途無線 LAN (Wi-Fi) アクセスポイントを設置する必要があります。

### B：モバイル回線

契約者はモバイルルーターやポケット Wi-Fi と呼ばれる専用の小型通信用端末でインターネットと無線通信を行います。WiMAX や Softbank Air といったサービスが有名です。無線デバイスをそのまま接続して利用することができます。無線接続機能がないパソコンを接続する場合は、別途 LAN ケーブルを使う有線接続用のアダプターが必要となります。月間で利用できる通信量に制限がある場合と無制限の場合があります。契約内容を確認しましょう。

### C：スマートフォン（携帯電話）回線

スマートフォンやタブレットに SIM カードを挿入して利用するタイプの回線です。月間で利用できる通信量に制限がある場合がほとんどで、格安 SIM と呼ばれるタイプの契約だと通信料が安い反面、利用できる通信量はさらに少なくなります。メールやネットサーフィンには十分な容量であっても、オンライン授業の受講には不足が生じる可能性があります。

## ■受講用端末

受講用端末には主に以下の3つがあります。

### A：パソコン

デスクトップパソコン、ノートパソコンの2種類があります。インターネットへの接続方式（有線接続／無線接続／どちらも可）を確認しましょう。

## B: タブレット

インターネットへの接続は原則無線接続となります。

## C: スマートフォン

インターネットへの接続は原則無線接続となります。画面サイズに制限があるため、A や B の受講用端末がある場合はそちらを利用することをおすすめします。

※利用可能な OS について

本学のオンライン授業で主に利用するコラボレーションツール「Teams」については、主要な OS である、Windows/Mac/Linux/Android/iPadOS/iOS に対応しています。

### ■ 受講環境の確認

インターネット回線と受講用端末について、自身が利用できる環境を事前に確認し、受講方法を検討しましょう。

### ☆ 受講環境ごとの注意点

	パソコン	タブレット/スマートフォン
固定回線	<ul style="list-style-type: none"><li>・パソコンに有線接続用の LAN 端子がない場合、無線 LAN アクセスポイントが必要。回線事業者からのレンタル機器に無線 LAN 機能が搭載されている場合あり。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・無線 LAN アクセスポイントが必要。回線事業者からのレンタル機器に無線 LAN 機能が搭載されている場合あり。</li></ul>
モバイル回線	<ul style="list-style-type: none"><li>・月間通信量の残量に注意。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・月間通信量の残量に注意。</li></ul>
スマートフォン回線	<ul style="list-style-type: none"><li>・テザリング機能を利用する。オプション契約となっている場合があるため、事前に確認する。</li><li>・月間通信量の残量に注意。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・月間通信量の残量に注意。</li></ul>

#### ④ 必要な手段

オンライン授業とは何か、なぜ実施するのか、受講するのにどんな環境が必要なのか、ここまでで大体おわかりいただけたと思います。しかし、それだけではオンライン授業を受けることはできません。物理的に離れた場所にいる皆さんに授業に関する連絡をしたり、授業コンテンツをお届けするための手段が必要となるのです。本学では以下の手段を用いて実現します。

##### ■メール

授業の配信を担当する地域連携政策センターとの連絡に利用します。

##### ■コラボレーションツール（Teams、ZOOMなど）

Microsoft の Teams や Google の Classroom、あるいは ZOOM といったコラボレーションツールについて検索をしてみると早く理解できるかもしれません。

コミュニケーションツールと言ったり、教育支援サービスと言ったり、呼び名は様々ですが、実際に皆さんに授業コンテンツをお届けするツールのことです。

本学では主に Microsoft の Teams を利用します。皆さんのパソコンやタブレット、スマートフォンにこうしたコラボレーションツールのアプリをインストールすることで、授業コンテンツを受信できるようになっています。オンライン授業を受講するための必須ツールといえます。

#### ⑤ オンライン授業の実施方法

##### ■授業動画（オンデマンド）の視聴

事前に収録された授業動画を視聴する形式です。

タブレットやスマートフォンの場合、多くの授業動画の再生について、事前に Microsoft Stream アプリのインストールが必要です。

## ⑥ 受講上の注意

### ■学内アカウントの管理

大学から付与された学内アカウントとパスワードは自分自身でしっかりと管理してください。

第三者にアカウント情報を貸したりインターネットに公開したりすると、思わぬ形で悪用されたり、大学の運営にも大きな支障を及ぼします。場合によっては処分を受けることもありますので、厳重に取り扱うようにして下さい。

### ■授業情報の公開や再配布

授業に関する情報や教材または授業動画を第三者に配布したり、インターネット上に公開するような行為は著作権侵害になることもあり、厳禁です。授業に関する情報は非公開の大学資産・著作物であり、軽率な取り扱いによって起きた事故については責任が問われます。

「オンライン授業」で配信される教材は、履修者の学修のために配信されるものであることを決して忘れないようにして下さい。

場合によっては処分を受けることもありますので、厳重に取り扱うようにして下さい。

### ◇やってよいことの例

- ・ 講義資料を印刷して授業の資料とすること。
- ・ 配信された動画・音声を視聴すること。

### ◇やってはいけないことの例

- ・ 講義資料を、インターネット上にアップロードすること。
- ・ 講義資料を、第三者に渡すこと。
- ・ 配信された動画を画面キャプチャまたはダウンロードして、別の場所にアップロードすること。

著作権については以下のページに解説がありますので、教材やQ&A などをおして基本的な部分を学んでください。

文化庁「著作権制度に関する情報」

{ HYPERLINK "https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/"

¥t "\_blank" ¥o "https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/" }

#### ■個人情報・肖像権等の保護

オンライン授業に限ったことではなく、普段教室で行われる授業においても個人情報は保護されなければなりません。

以下のようなことは個人情報の保護に反することになりますので、決して行わないでください。処分の対象となる場合があります。

- 担当教員や受講者の写真や映像を本人の許可なく勝手に撮影・録画すること。（スクリーンショットも同様です）
- オンライン授業用のコラボレーションツールを介して、他の受講者の氏名やそこから生成されるメールアドレス等を不必要に収集しインターネットに公開したり、第三者に譲渡したりすること。
- 授業時間に知り得た、教員や他の受講者のプライベートな情報をSNSなどに書き込むこと。